

広島大学図書館蔵『天神之御本地』寛永二年写本翻刻（一）

広島大学日本語史研究会

ここに翻刻する広島大学図書館蔵『天神之御本地』（国文N二三
四二モノ後¹⁵⁶）は、広島大学中央図書館貴重書室に蔵される、寛

永二年（一六二五）三月の写本である。書名は、内題による。

この写本は、天神縁起の一本として紹介され（村上学「お伽草
子『天神本地』ノート（一）（二）」〈名古屋大学国語国文学〉第
一八号・二一号、一九六六年六月・一九六七年十二月）、その後、

慶応義塾図書館蔵『天神の本地』（寛文頃写本）および天理大学図
書館蔵『てんまん大じざいてんじんの御ほんち』（江戸時代初期写
本）と三本同系で、同じ安楽寺本（続群書類従所収）系の他本と

区別されるべきことが言われた（今西實『天神の本地』の一本を
めぐって）〈山辺道〉一九、一九七五年三月）。

慶応義塾図書館蔵『天神の本地』は、『室町時代物語集成 補遺
二』（一九八八年、角川書店）に翻刻された。しかし、天理本・広
島大学本は、右の今西論文に部分的な翻刻が有るのみで、全文の
翻刻は未刊である。

広島大学蔵本は、23.5×17.0 cmの冊子本、墨付き五十四丁、每半葉
十行で書写されている。当本には、本文と同筆で、「寛永貳年／三
月下旬書之畢」の奥書がある。この奥書の通り、全文は寛永二年

(一六二五年)の書写と見られる。

幸い、広島大学図書館から御許可を頂いたため、全文の翻刻を公にする。原本閲覧ならびに翻刻の御許可を賜った広島大学図書館に対し、心中より御礼申しあげる。

なお、紙幅の都合上、本号には、巻頭から第二十丁までを掲載する。大方のご批正をお願いしたい。
(以上、佐々木 勇 記)

《凡例》

一、本翻刻は、『天神之御本地』(国文N二三四二モノ後156)の原本に基づき、原本のままの行取りで、現行の字体に改めたものである。仮名遣いも、原本のままとした。

一、促音・舌内人声音に使用される  は、「ツ」で示した。

一、 のごとく記される助数詞「つ」は、小字右寄の「ツ」で示した。

一、その他、必要と思われる注を、「」に入れて当該箇所にし記した。

一、本翻刻は、坂水貴司・申智娟・本間啓朗・檜崎寛之・糸山由

樹・西浦瑞姫・板谷智美・田中園絵・畠山ともみ・宮崎若菜・山口倫香・佐々木勇で作成した。なお、本文入力作業は坂水・申・本間が行ない、佐々木が確認した。

《翻刻》

(一丁・表)

1 天神之御本地

2 ほのかにきく三はのあしかいしやうにひらけしより

3 此かたいさこつもりて山となりちりつもりて

4 くとなるこれを日本あきつ嶋とかうす又とう

5 かいきしのくにふさうやばたいともなつくるなり

6 むかし住よしの明神あしのわかはやとゝして

7 なみまにすみ給ふかのあしのはひかしよりにしへ

8 千五百里みなみよりきたへ七百里たまのはた

9 七ッにあひわかツて六十六かこくとなりそのゝち

10 てんせう大神御すゑしんむ天わうをはしめとして

(二丁・裏)

1 ほうせいにたまをみかきらくやうにのきをつらね

2 このくにゝらいけんのかみかすをしらすまします

3 中にもらいげんあらたなるはてんまんてんしんにて

4 まします一たひも此ほんぢをよみたてまつる人

5 をはまいにち七度まほらんとちかひ給ふなり

〔某字擦消の上、重書〕

6 神は人のうやまひをもツていをまし人は神の
7 まほるによツてとくをますたのもしきかなや
8 こゝろをつくしてこのゑんきをよみたてまつらん
9 にはみゝをかたふけちやうもんせはよろづのさい
10 なんをはらひむひやうにして人にきよなんを

(二丁・表)

1 ゆいかけられすそもくすかはらのいんと申は
2 かんしやうくうこれよしの家なりしやうくうの御まへに
3 五六さいはかりのちこあそひいてたりようかんびれ
4 いにしてたゝ人にあらすほさツしやうしゆ天人の
5 やうかうかともいひつへしそのときしやうくう
6 とい給ふやうさてもきみはいつくよりきたり給ふ
7 そたれ人の御子そとありければ我はこれちゝも
8 なしすみところもなしひとへにかんしやうくうを
9 たのみ申おやになし申さんとのたまへはかんしやうくう
10 よろこひたまひていただきあけたてまつるわか

(二丁・裏)

1 子になし給ふ七さいのとし三月十五夜の月かすみ
2 もはれてにはの梅いろもにほひもいとおもしろき
3 おりからなるにしやうくうこゝろみにおほせあり
4 けるはもししなとはつくらせたまふへきかとあり
5 ければ月のしろきに梅の花を見たまひてや

6 かてしをつくらせたまふ

7 月のひかりはせいせツのことし梅の花はせうしやう
8 ににたりあはれむへしきんけいてんする事

9 ていしやうきよしはうのきく

10 かやうにすこしもはゝからすつくらせたまひければ

(三丁・表)

1 ちゝのしやうくうかんるいをおさへひさのうへにをき
2 たてまつりてせんだんは二はよりかうばししとはよろ
3 こひ給ふ其後よにまし日にましちゑさいかく人
4 にすくれましませはかたをならふる人もなしはや
5 十四さいにならせ給ふとしのくれ比はしはすなかば
6 なるにおもてのいけうちこほり雪もふりつもり
7 たるを御らんしてつくれり
8 こほりすいめんにふうしてきくになみなし
9 雪りんとうにてんして見るに花あり
10 さてもてんきう大しにツたうのときゑんとん大乗

(三丁・裏)

1 かいをつたへてひゑいさんにかいたんいんをたてんとおほし
2 めすにならのみやこのほうしともこれをそしりあら
3 そふところにてんきう大しけんかいろん三巻をつく
4 らせくはんむ天わうにまいらせ給ふくはんむこれを
5 御らんしてならのみやこのほうしともそしるをももちい

6 たまわすゑんりやく十三年六月十一日にかいたん
7 いんをたてらるへきちよくしありけりしかれともなら
8 のほうしともいろくさまくに申かすめさまたけん
9 とするところにじかく大しけんやう大かいろんと
10 いふものをつくりその、ち大せうかいをひろめたま

(四丁・表)

1 ゑり此書物ともをかんしやうくうこれよしに
2 たてまつるこれよしおほしめすやうさすか此書を
3 しやうくうかかきてけかすへきにあらす我子なり
4 とまかのきみにかゝせたまへとありければかのきみ
5 ぢたいせはやとおほしめしけるかひとつはきめい
6 そむきかたしひとつはけちゑんたるへきとて御年
7 廿一ちやうくはん八ねん十一月にかき給ふ世中のほま
8 れかきりなしのかあそはしたる書物ともはゑい
9 さんのてうほうなりちやうくはん十四ねん三月の
10 比なるに鶯花にさへつり柳のいと風にみたれ

(四丁・裏)

1 けふある比なるにとりやうの家に入くあつまりた
2 まひてゆみあそひせりそのときかんせうしやうも
3 ましましけるに雪ふかきたにのほらよりも露鶯
4 の梅のにほひにはつ音をさへつるふぜひに人みな思ひ
5 あひたり君は月花に心をよせしをつくり哥を

〔補入〕

6 多ひし玉のつくゑにひぢをかけたまへはゆみのもと
7 すゑはよもしろしめさしと申ければ弓の庭へいて
8 給ひて弓にやをうちつかい給ふ御すかたをみれば
9 もろこしのやうゆふもこれにはまさしとをのく申
10 あくるやを二ッはなしたまふたつなからはつきす

(五丁・表)

1 もゝたひちたひあそはすともはつれへき事は
2 なしくはんへい六ねん九月の比きちしやういんに
3 あつまりてほうしありけるにほうゑのにはにたひ
4 そくのおきなかみにつゝみたる物をふみ一まきに
5 とりそへたうしの御まへなるつくゑのうへにおきて
6 たちのくその目のたうしはそうつせうゑんと申そうつ
7 此文をひらきて見給ふになにゝつたへきくかんか
8 のもんにあくるとしをよるこひすくるとしをいとひ
9 しはらくよにやすらひておほくのとがをもとむと
10 ふるき人いひをきしなりおんをほうせんといふ事

(五丁・裏)

1 なしふかく此きをかんしてやみなんとするにあた
2 わすかるかゆへに此しやきんをすてん其心さしを「を」擦消か
3 もとむへしとそかきたるこれはかたしけなくもてん
4 ちのしゆするところなりときたいふしきのよし
5 そうつほめ給へりおなし七ねん三月くれにゑんきの
6 みかといまた御くらいにはつきたまはすわかみやと申せし

7 ときかんせうしやうちゑさいかくのふんぎいをしろし
8 めさんためにのたまふやうもろこしには一日のうちに
9 百首の詩をつくる人ありときくなんちかさいかく
10 にて一時のうちに十首の詩をつくりてまいらせよ

(六丁・表)

1 とて題をいたし給ふかんせうしやうやかてときの内
2 に十しゆの詩をつくり給ふそうしゆツとうなんといふ
3 らふゑいなり又おなしくかさねてのたまふやうきよ
4 ねんのはる十しゆのしをはやくつくれるなり又一時
5 のうちに二十首の詩をつくるなんやとて二十首
6 の題をとりのこくのはしめにいたし給へり其時
7 かんせうしやうのたまふやうむかしもいまも一時の
8 うちに二十首の詩をつくりたる事はいまたきかす
9 しかれともかうてんのきめひそむきかたければ去
10 年の十首の詩よりもとねん二十首の詩をは

(六丁・裏)

1 なをはやくつくり給へりたとへは三十一字のうたなり
2 とも一ときのうちにいかてか二十首よみはんへらん
3 やとてたゝ人にあらすわくはうとうしんのすいしやく
4 なるよとみかとをはしめたてまつり人くゝ申あくる
5 きよねんのはるとりやうきやうらいせいもんを行

「某字・擦消」

「一」 「某字擦消の上、重書か」

6 けるにはる風柳のいとをふきなかしゆらめき
7 けるをみてとりやうきやう

8 きはれては風しんりうのかみをけつると

9 かやうにかみのくはつくりたれともつきくをあんし
10 わつらひつくりかねたるところにらいせいもんのうへ

(七丁・表)

1 よりもおほきにしはかれたるこゑにてこほりきえ
2 てはなみきうたいのひけをあらふとこくうより
3 つきければ身のけもゆたツておそろしく思ひ
4 ければかんせうしやうはうちわらはせ給ひてかみの
5 くはにんけんのくつくりなりしものくはかならず
6 きじんのつくれるやとありければそれよりかんせう
7 しやうをはじんつうじさいにてましますとは
8 人くゝこゝろへたりおなしき九ねんの六月ちう
9 なごんになり給ふそのとしの十月どんきのみかと
10 くらいにつかせ給ひてたいこの天わうと申かん

(七丁・裏)

1 せうしやういよくゝめいよをほとこし給ひてしやう
2 たい二ねんのはるう大しんになりたまふおなしき
3 三ねんの八月に十二巻のわかのしよをしろして
4 大君へそなへたまへり御かんのあまりにしなとを
5 つくりてをくり給ひしなりさるほとにかんせうしやう

6 は諸人はんみんなにすくれかたをならふるしんかも
7 なししかるところにさ大しんしへいのおと、
8 むしツのざんをたくみ給ふ此さ大しんしへいの
9 おと、と申はきさきのみやのあにのしゆちやくの
10 おちなりこれもちゑさいかくは人にすくれてまし

(八丁・表)

1 ませともかんせうしやうにはおとり給へりそのとき
2 しへいのおと、かんせうしやうてうふくして
3 ほろぼさんとておんやうしをかたらひてしゆく
4 のひきて物をあたへみやこの四方にほとけを
5 うつみにツきやうをうつみやうくわみやうしゆ
6 をまつりかへてしへいのおと、みかとの御まへに
7 てむしツのさんを申されけるさてはかんせう
8 しやうこそふしきなる事をたくみ申きみを
9 くらゐをすめらせ申しきぶきやうのみやをくらゐ
10 につけ申さんといろくのまつりことを申

(八丁・裏)

1 君をしゆそし申候したしかにこゝろへ申君
2 おしこめられたまはぬさきにはやくかのかんせう
3 しやうを御はからい給ふへしとそ申されける君
4 きこしめしおほきにおとろき給ひてかんせう
5 しやうをいそぎ流ざいにおこなふへしとてけ

6 りんあるこれそとふ家をやぶるざんにんくに
7 をみたすといふことはにてとかなきかんせうしやう
8 をしやうたい四年正月廿五日さいこくへなか
9 されすてはいしよにおもむき給ひける時
10 てひしいんへまいらせたまひけるうた

(九丁・表)

「二」・擦消

1 なかれ行すゑのみくつとなりぬるを
2 きみしからみとなりてと、めよ
3 てひしいんのほうわう此うたを御らんして哀
4 とおほしめしみかとは我子なればかのかんせう
5 しやうのせせうを申さんにはなと御ゆるしたまはさらん
6 とてのり物にもめさすしてちやうせひもんより
7 いらせたまひておはしけれともしんか一人もいてあひ
8 申さすこゝにすかねのあツそんといふしんかはかり
9 いてあひ申これもかんせうしやうに「某字」に重書うらみ事
10 ありてしへいのおと、たんかうなれば此よしみかとへ

(九丁・裏)

1 そふし申事なしや、ひさしくた、せ給ひて
2 むなしく御かへり給ふさてかんせうしやうの御子は
3 なんし四人ひめきみ九人ましますなんしはち、
4 かんせうしやうつれ申てつくしへくたり給ふひめ君
5 はみやこへんとにと、まり給ふもありちゝにそへは

- 6 は、こひしきは、にそへはち、こひしとてなんし
- 7 ひめきみたちの御なげき行もと、まるもたかい
- 8 にわかればあはれなるをあらきもの、ふともは
- 9 とくく、とせめたてまつればちからなくかんせう
- 10 しやうはなくく、いてさせ給ふきたの御かたひめ君

(十丁・表)

- 1 たちに御いとまこひたかひの御なげきちから
- 2 なくさてすみなれしみやこの内をたちいて、
- 3 やへのしほちにおもむき給ふこふはいてんの
- 4 なこりおしくおほしめしーしゆ

- 5 こちふかはにほひおこせよむめのはな

- 6 あるしなしとてはるなわすれそ

- 7 あはれなるかなや梅はばん里のなみをしのきて

- 8 つくしのあんらくしへとひさくらはかれあるしを

- 9 したふ心さしにんげんはかほとはよもあらしみやこへ

- 10 たよりの時きたの御かたへまいらせ給ふうた

(十丁・裏)

- 1 きみかすむやとの木すゑをはるくくと

- 2 かくるこまてにかへりこそ見れ

- 3 さて都のかた心にこひしく思ひなみたひまなく

- 4 こほるゝ折ふしつくらせ給ふ御詩まことに

- 5 あはれにそおほゆる

- 6 家をはなれて三四月おつるなみたははく

- 7 せんかうばんじはゆめのことしよりくゝひさうをあをく

- 8 此しをは御心のうち計にて御つくり給ひ御口

- 9 よりよそへはもらしたまはさるにもるこしまても

- 10 かくれなく人くゝゑひせしなりかくてある日の

(十二丁・表)

〔「せ」は「じ」に重書〕

- 1 つれくゝに野さと山里うらさとなとのしばのあみ

- 2 戸をたてゝおのゝことわさともをなししよろ

- 3 しきすかたの人もゆきかよはすむらくゝに

- 4 たちまよふけしきのけふり物すこくあちき

- 5 なきおりふしよみ給ふ

- 6 夕くれは野にも山にもたつけふり

- 7 なけきよりこそもえまさりけれ

- 8 又雨のふりけるに

- 9 あめかしたかくるゝ人のなければや

- 10 きてしぬれきぬひるよしもなし

(十二丁・裏)

- 1 すきにししやうたい三年九月十日のゑんには

- 2 しやうさんみう大しんの大しやうにてゑいくわ

- 3 てんかにならひなかりけるその日よろこひの詩

- 4 をつくり君にまいらせたまふ

- 5 きみはしゆんしうにとゝまつてしんはやうやく

6 おいぬそくにかひかんなしほうせんとするになをおそし

「補入」 「一へ」「い」 擦消の上

7 みかとこれを御らんして御かんのあまりにきよへ

8 を「上欄補入」たまひそれはみやこのかた見とてつくしまて

9 身をはなたすこれを見るにいと、むかしの

10 こひしさにつきのとし九月十日になりしかはこぞ

(十二丁・表)

1 のこよひのおもひいてられてかのきよいを御ひさ

2 にひきかけて

3 このこよひせいりやうてんにひとり

4 はらかたをたつかツしのきよゑをさ、けもツて

「多」「い」 擦消の上

5 まいにちよかうをはひすおりく、のしいかその

6 かすをしらす御せいきよのときみなあつめ

7 給ひてはこの内にふかくおさめ都へをくり給ふ

8 なかをちうなこんをはしめとしてしをつくり

9 人く、おほくあつまりこれを見るになみたを

10 なかさぬはなし九月十三夜の月いつよりも

(十二丁・裏)

1 あきらかに御心もすみわたツてむかしの人く

2 の事ともおほしめしつゝくるによもすから月

3 のひかりにあき風のそよめきければ

4 月のいろかゝみにてつみをあきらかにする事なし

5 風ふきてかなたのことくうれいをきく事なし

6 さて御身のとかなき事をつくしにてさいもん

7 かきてたかき山にのほりて七日ほと天たうに

8 いのり給ひければ七日にまんずるときかのさい

9 もんをくもの上へつじ風吹あけたりたいしやく

10 てんをもとひすきてほんてんまてそあかりたる

(十三丁・表)

1 らんとおほえけるきたひふしきの事なりされは

2 しやくそんはぼんふのむかしてひしやふツのみかと

3 にして七日七夜あしのゆひをつまたて、天たう

4 にいのりたまへはみろくよりさきにほとけになり

5 たまふかんせうしやうも七日七夜あをのきにて

6 天たうにいのりたまへは天まん天神となり給ふ

7 都をいてたまひしときは此世はゆめまほろしなれ

8 はのちの世をいのらんと思ひしめ給ひしつくし

9 にてはむしツのさんをむねんにおほしめしめしくしん

10 とならはやとて天にあをぎいのりたまふその

(十三丁・裏)

1 思ひつもりてすてにゑんき二年二月廿五日

2 につくしゑのきてうといふところにてむなしく

3 なり給ふほとにちくせんのくによつかのへんに

4 はかところをさためをくり申ければみちなか

- 5にてかの御かばねおもくなりたまひてゆかす
- 6御ともの人くふしきに思ひそのまゝその
- 7ところにおさめ申しまのあんらくしと申は此
- 8てらなりさてそのゝちゑいさんのごすはてんぎう
- 9大し十三第めのときほツしやうはうのそんい
- 10そうしやうと申て天下にていけんあらたに世に

(十四丁・表)

- 1すくれてたツとくましますにかんせうしやうも
- 2御ちかつきかくもんありしなりかのそんいそう
- 3しやうきうか三ふくのなつの夜なかに三かう
- 4五かうのてんもいまたあけさるにひみツのほう
- 5をおこなひこくうをくはんしていのりたまひ
- 6ければちうもんのやり戸をほとくとたゝくたち
- 7いてゝ見たまへはすきにし二月廿五日につくし
- 8にてせいきよし給ひしけるとときこへしかんせう
- 9しやうにてましますそんいそうしやうむねうち
- 10さはきあやしとおほしめしけれ共なにとなき

(十四丁・裏)

- 1やうにもてなしてこなたへいらせたまへとてぢ
- 2ぶツだうへしやうし申ふしきの御こへかなとあり
- 3ければかんせうしやうの給ひけるやうされはこそ
- 4我くやくもにこれる世にむまれあひて

- 5むしツのざんそうゆへ流さいにおこなわるゝ事
- 6むねんさをあらはさんとてほん天たいしやくゑん
- 7まほうわうけんらうちしん五たうのみやうくはん
- 8みやうしゆにいのり申ければそのゆるさを
- 9かうふりたやすくほんまうをとけまいらせ候（音字）そんい
- 10の御事はいけんあらたにましますせはさためてせん

(十五丁・表)

- 1しありてみかとへ御まいり御きたうあらはなに
- 2かしかしんつうしさいのしんりきもかなひ
- 3かたしひさしくしていのけいやくを申せしなれば
- 4ひとへに御たのもしくおもひ申なりあひかまへて
- 5大りへ御まいりあるへからすと此しさひをねん
- 6ころに申さんためにまいりてゝとありければ
- 7そんいそうしやうのたまひけるやうけんしんせい
- 8しんなれともにこれる世にむまれきてさやうの
- 9なんにあふ事は御身一人にかきらすいちぎやう
- 10あぢやりと申せしめいしやうは流さいせられ

(十五丁・裏)

- 1けるとかやにんめいのかうとくもむしんのさん
- 2ゆへうしなはれ給ひしなりあたをはおんをもツて
- 3ほうせよと申せはあくしんをやめたまひて
- 4ふツたうにいらせ給ふへし御身の事はしていの

5 けいやくあさからすとし月あひなれし事なれば
6 たといかなることなりともいなとはさらに申へ
7 からす候へともされともわうとのすまひなれはせんし
8 をいかてそむくへきさりながら御身の事も
9 たのませ給ふ御心さしのうちもいたはしく
10 おもひければたとへみかとの御つかひなりとも

(十六丁・表)

1 三度まではまいるへからすそのへちは御つかひ
2 をはさのみはいかてそむきまいらせ候^{合字}やとありけれ
3 はかんせうしやうの御かほのけしきにわかにかはり
4 たまひものさはかく見えけるほどに御のと
5 やかはかせ給ふとてぢやくろをまいらせたまへは
6 かんせうしやうかのしやくろをかみくたきて
7 やり戸にはきかけ給ふしやくろすなはち
8 くはゑんとなつてもえあかるそんいそうしやう
9 やかてしやすひのいんをむすひかけたまへは
10 きてやり戸ははんふんもへたりこれをきとく

(十六丁・裏)

1 とてゑひさんにいまたありかくてゑいさんの
2 みねのうへよりくろ雲うすまきあかると見え
3 けるかほとなくみやこのうへにたちまよひかみ
4 なりしんとうらいてんして大りのうへにとひ

5 さかるしんか大しんくきやう一どうにわツといひ
6 てきもをけしなやみふしされともしへひ

7 のおとゝはたちをぬきてこれはかんせうしやうの
8 おんりやうとなりてのしよきやうかや我はかんせう
9 しやうより一かいくらひたかきことなればみかとを
10 いかてなやまし申給ふへきそのうへ大りのしゆご

(十七丁・表)

1 しん日よし山王三十はん神そうして日ほん国
2 中の大小のしよ神しゆごしたまへはいかなるあく
3 りやうなんだばツなんだのりうわうともいかに
4 みかとにあたをなし申さんと大おんあけてよば
5 はりたまへともいよくゝらいてんなりまはるくろ雲
6 うすまきちやうやとなりていなひかりはくはゑんの
7 のことしみかとをはしめたてまつりたかきもいや
8 しきもさうの手をさしあけなむ大ひくはんせ
9 おんこんとのいのちをたすけたまへとこゑくゝに
10 よははりけりしへいのおとゝはまなこもくらゝくと

(十七丁・裏)

1 なりきもゝ心もきへみゝもあかぬほとにらひ
2 てんしければたちをやうゝさやにさしてたな
3 こゝろをあわせてなむ大ひくはんせおんたすけ
4 たまへときねんするかくてねうはうなんはう

5 たのむところはくはんおんはかりにてましませは
6 ふもんほんをよまんとて心をしつめたまへとも
7 きやうのつゝきもおほへねはさらはかんようのもんを
8 となへよとてうんらいくせいてんかうはくしゆ
9 大うねんひくはんおんりきおうしとくせうまん
10 ととなへ給へともそれもきもたましゐもうせければ

(十八丁・表)

1 あるひはたゝみをかふりてふすもありあるひはいたしき
2 のしたへはいるもありこゝにしんか一人思ひいたし
3 て申やうゑいさんのそんいそうしやうをいそきしやうし
4 申へしと申あけられければみかともかくとおほし
5 めしゑいさんへせんしありそんいそうしやうはかん
6 せうしやうにかねて御やくそくの事なれはぐ
7 そうのちからにはかなふましきとて御返事ありければ
8 おしかさねて三度までにせんしあるさのみ
9 はいかてわういをそむくへきやかてまいるへきと
10 御返事ありければくきやう大しんよろこひて

(十八丁・裏)

1 さてはこんとのいのちはたすかるへきうれしきよとて
2 おのゝおほせけるそんいそうしやうはくるまに
3 めしいそき大りへまいり給ふところにかうすい
4 なかれてかも川の水ませはくるまをとばせ

5 やうもなしらいてんはしんたうしてくる雲うす
6 まき大あめふれはそんいそうしやうの御ともの人
7 〴〵もとうさいくらくしてきもゝ心もうせければ
8 御ともの人〴〵そうしやうに申やうさらにぼん
9 ぶのきやうかいとしてかなふましと申されければ
10 そうしやうおほきにはらをたちおそれながら

(十九丁表)

1 此とし月きやうりききやうこをつもりてそんい
2 そうしやうか火の中水のそこなりともなとか
3 とをらてあるへきそとたゝくるまをかうすいの
4 中へをし入よとありければそのうしかいどもの
5 人〴〵のしやかによらいはちやうしやかよねを
6 あらひし水にたにおしなかせれ給ひけるとときく
7 にいはんやそんいそうしやうなにといいけんあらた
8 にましますともこれほとのかうすひにくるまを
9 とをしたまはん事はおもひもよらぬ事そかし
10 しよせん思ひいたしたり此たひの御いのちは

(十九丁裏)

1 大事のしさいなれはそんいそうしやうこそいのち
2 をしつめかねたりとばんみにいわれんかなし
3 さにこうすひへ御身をしつめんためあてかい
4 なりとをのゝさゝやきかたりけりそんいそう

5 しゃうはおほきにいかり給ひてなにとてくるま
6 をやらぬとありければちからおよはすこ
7 すひの中へうしをおい入くるまをやはうし
8 もくるまも見えさりけるかふしきやなこ
9 すひかかみしもへおしわかツてくるまのあたりは
10 水もなくほりのことくなりければくるまの

(二十丁表)

1 なかへにとりつきてこえけるに御ともの人く
2 うしかひにいたるまでこれはいかなるきとくそとて
3 にのいきをそつきにけるその中にしれたる
4 わらはへおかしき事をそ申けるほうわうといふ
5 鳥のつはさにふかといへるむしともくいつきて
6 ほ「わ」に重書「うわうのとふにつれはからさるにせん里とふ
7 ときくたゝいまのわれらはくるまにとり付
8 てちいろなるこすひの中をはからさるに
9 とひこへたりときやうけんしてそわらひける
10 さてそうし「ち」に重書「やう大りへまいりたまひてせん

(二十丁裏)

1 しゆのほうをしゆしたまへはらいでんしはらく
2 しつまりければ人くすこしいきあかり夜
3 のあけたるかことくなり又くろ雲うすまき
4 くたるほとにそんいそうしやうは大おんあけて

5 よばはり給ふ一字せんきんにあとふとありければ
6 やかてこかねせん両つゝみてくろ雲のうちより
7 なけたまふそんいかさねてよばはり給ふさて
8 一てんたしやうをたすくるとありければくろ雲
9 四方へはツときへてせいてんとなりければみかと
10 多いらんあツてぎよかんいろくさまくゝなり

(つづく)